

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01232

研究課題名（和文）在沖縄米軍基地の内と外に再生・継承される聖地・祭祀の文化人類学的研究

研究課題名（英文）A case study of Base and Sacred place in Okawa

研究代表者

山内 健治（Yamauchi, Kenji）

明治大学・政治経済学部・専任教授

研究者番号：60254728

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：沖縄県本島中部地域（読谷村・北谷町・嘉手納町）の米軍基地内に存在する聖地の保存状態の現地調査を実施した。その聖地の運営を行う各自治会の調査を実施した。元々の住人により構成された「郷友会」と現在住民の関係を精査した。米軍基地内に存在する聖地の運営は、元住民の保持する軍用地主料に多く依存しているため、聖地への祈願も現在の自治会が得る公共的軍用地主料の経済人類学的分析を実施した。基地内の元集落は全て戦後、強制移転したため、分散居住する「郷友会」の存在と、戦後の自治会と二重の社会構造の分析を実施した。また、本研究では、基地内より返還された北谷町内の字に着目しつつ、その民俗学的・人類学的復元を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

沖縄県本島中部地域の米軍基地内に存在する聖地（拝所）の現地調査を実施したことにより、沖縄の基地と聖地の継承や運営の実態を明らかにし、民俗的儀礼の継承が、米軍基地内に点在する元住民の軍用地料と密接に関わる社会構造を分析した。基地内に存在する聖地の運営は、元住民の保持する軍用地主料に多く依存している。同時に、聖地のある場所は、元集落の位置する黙認耕作地に点在している。現在の自治会員と分散居住する元集落構成員による「郷友会」と聖地の関係を記述・分析した。本研究では、基地内より返還された土地での聖地に着目し、その経済人類学的分析と文化財保護の観点からの共同体研究である。

研究成果の概要（英文）：This research is a case study of memory of the forced village relocation by Okinawa U.S military Base. This report is a community study of Okinawa. This report is an anthropological study of Okinawa's bases and sacred sites inside and outside the bases. The central region of Okinawa Prefecture is dotted with many folk sacred sites. These sacred sites include the fire god "Hino-kami" "Noro-kami" and the tomb. In this study, we mapped these sacred sites and conducted a survey of their ritual succession networks. This study was conducted on the basis of records, fieldwork, and data on the folklore and culture of the old characters that once existed at Camp Zukeran, Kuwae, and Kadena Air Base, which are U.S. military bases in the Chubu region. Through the restoration of sacred sites and places of worship in seven former villages, and through the recording and comparison of the activities of the logic of the static historical ritual community, the <shima>, will be explored.

研究分野：文化人類学

キーワード：基地 聖地 軍用地 民俗 ノロ祭祀 沖縄

1. 研究開始当初の背景

沖縄県中部地域における在日米軍基地内及びその周辺に存在する聖地(火の神・ノ口神・井戸の神・水の神等)と墓の民俗学的調査は十分に行われてこなかった。理由は基地内に入りにくいこと共に、基地内に戦前より存在していた集落が、基地建設により移転し、その祭祀対象の伝承が途絶えがちとなってきたからである。本研究では、移転集落での聞き取り、あるいは戦後、分散して居住する元住民によって組織される「郷友会」をリストアップし、可能な限り元住民へのインタビューと同時に、基地内および基地周辺の聖地を明らかにする必要を考えた。同時に、元住民によって継承されてきた、聖地への祭祀儀礼を記録することとした。こうした研究対象への分析資料は、これまで、人類学・民俗学での研究蓄積はなく、本研究は急務な課題としてスタートした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで戦後の沖縄研究に見過こされてきた米軍基地により 強制移転=基地に消えたシマを対象とすることにある。また、旧集落の部分返還された地域での民俗事象(聖地・拝所・墓等)の復元と、その祭祀の継承を担う元集落に居住していない人々によるネットワーク=「郷友会」の活動を精査し、戦後沖縄の文化継承と新たな共同体 研究を行うことにある。沖縄文化研究において基地及び基地周辺の村落調査は伝統的沖縄文化の変容したものとして記録されてきた。主たる理由は古村、少なくとも琉球王国時代に記録され、かつ現在まで移動せず存在している村落とは区分され分析されてきた。しかし、予備調査によれば基地内及び基地の外に存在している旧村落の聖地(戦前からの土地の神・川の神・火の神・ノ口遥拝地)を保存し、沖縄県全域に分散して居住する旧 住民及びその子孫の運営する郷友会による年中行事の活動は、かつて民俗学・文化人類学が描いた「祭祀共同体」の擬似的姿そのものである。あえて差異を述べれば、旧集落民がその地に居住していない事のみである。かつて保持していた旧集落の共有財産も現在、基地内の 軍用地として郷友会の管理の元、聖地整備・敬老会・冠婚葬祭費用に当てられている。具体的な調査地は軍用地に接収されたままの北谷町・嘉手納町・沖縄市にある基地内の聖地・拝所及びその郷友会活動祭祀を記録することにより、米軍基地フェンスの内と外に再生されるかつての祭祀共同体=伝統的<シマ>空間の歪みと現実対応の論理を分析し、政治的・社会的条件下での沖縄の文化構造(帰属性・場所性・伝統の正当性を超えて、文化を継承するネットワーク等)の再生構造を探る。以上が本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、中部地区にある米軍基地であるキャンプ瑞慶覧・キャン桑江・嘉手納基地にかつて存在していた旧字の民俗・文化の記録・フィールドワーク及びデータを基礎に分析を実施した。具体的にはキャンプ瑞慶覧基地内にはかつての旧字北谷・玉代勢・伝道という集落の拝所が基地内に残された古城跡に合祀されている。現在、このエリアは北谷町教育委員会・文化財課により米軍基地司令部の許可をえて考古学的発掘調査が進められているが、民俗的文化財(旧字民の拝所・火の神・川の神・井戸の神・ノ口殿ほか)の記録は十分ではない。またそれら聖地を維持・管理する郷友会活動・メンバーシップ、豊年祭ほか年中行事に基地内の聖地に入り祭祀を遂行する具体的記録は「郷友会誌」に散見されるのみで、これらを参考に年中行事の参与観察・現地調査を実施した。本研究では、基地内聖地への遥拝と郷友会活動を記録・分析する。このフィールドワークは まず、キャン桑江基地内に存在していた旧字桑江及び旧字伊礼の基地内の聖地と郷友会の 活動を記録した。このエリアの聖地の特徴は基地内の聖地が基地内のため入りにくいという理由から、基地の外に聖地そのものを移転して、「伊礼郷友会館」という郷友会メンバーの 事務所を建設・合祀場を移転して文化の継承を行なっているところに特徴がある。さらに研究開始、2年度以降には広大な嘉手納空軍基地に旧集落(畑地含む)全体が接収された基地に消えたムラ北谷町旧字「下勢頭」の郷友会の活動を記録する。現在「下勢頭」という地名・番地は存在していないが、嘉手納基地に隣接する他の字有地に「下勢頭郷友会館」を建設しかつてのムラ行事を継承している。旧下勢頭字民とその子孫により年数回、基地内 に保存されている字の記憶(旧字事務所跡・松並木・旧拝所・闘牛場跡)の整備・清掃作業 に入る。さらに、嘉手納基地の関係では、北谷町砂辺地区戸主会の活動を調査実施する。砂辺地区は旧字を昭和29年まで基地用地に接収されたが、その後、暫時、旧集落地を返還されている。しかし、元住民は、他地域への移転者が半数を超えているため、元住民による「砂 辺戸主会」(郷友会)を結成し、元集落にあった30以上の拝所・聖地を現在、整備中である。以上、七つの元集落の聖地・拝所の復元、郷友会活動の記録・比較を通して、静態的な 歴史的な祭祀共同体、<シマ>の論理を探るのみではなく、沖縄戦・基地接収という社会的条 件を余儀なくされた村落で沖縄を支え続けてきた<シマ>の論理と再生力を精査する人類学的研究のエスノグラフィを作成する。以上、人類学的フィールドワーク・参与観察と村史・字誌・古地図等の文献資料より、戦後沖縄の祭祀継承を明らかにする分析方法である。

4. 研究成果

本研究で明らかにされた具体的な調査データ記録・分析対象は以下の通りである。

1) 調査対象地

1. 北谷町旧字北谷集落 2. 旧字伝道集落 3. 旧字玉代勢集落 4. 旧字桑江集落 5. 旧字伊礼集落 6. 旧字下勢頭 7. 旧字砂辺集落

2) 調査研究によりデータベース化された内容

上記旧7字の基地内及び基地周辺に存在する聖地・拝所のマッピング・映像記録
伝承の聞きとりデータの文字化・報告書の作成

上記旧7字の祭祀・年中行事の記録及び旧字郷友会動・組織・財産運営の記録 3 基地内外にある伝統的な聖地に関する文化財保護活動・行政の資料収集

本研究により明らかにされた研究課題・成果は、沖縄県内における基地と隣接する市町村において、戦後、伝統的な聖地・祭祀がどのような論理で継承・保存されてきたか、その当事者の集団活動の実証的データを比較分析することにより民俗学・人類学のいわゆる<シマ>の論理を再考することが可能となった。また、地域・場所に固定した文化継承の論理を超えて、動的な文化理論を構築した。さらには、これらで得られた研究成果は、基地問題と経済・文化・観光に揺れる現在の沖縄の社会構造である。

本研究での特筆すべき成果を列記すると、以下のとおりである。

「基地に消えたシマ下勢頭集落」報告

嘉手納基地内に戦前、位置していた下勢頭集落は、戦後、強制移転したが、その元住民及び子孫は、沖縄県内に分散して居住している。その成員は下勢頭郷友会を組織して活動している。同会の故郷探訪ツアーに同行し参与観察を実施すると共に嘉手納基地内にある元集落のムラ事務室・拝所・井戸・墓・闘牛場跡地等の撮影と地図化を実施した。これにより、旧字の景観人類学的な復元資料を作成・公開することができた。

「2022 年度に実施したキャンプ瑞慶覧基地内調査」報告

同年6月に2023年に同基地より一部返還された「北谷城址」（跡地・遺跡群）への立ち入り現地調査を実施し、撮影・聖地の位置確認・地図作成を実施した。この調査は北谷町教育委員会の協力の元、実施した。これまで同地域での考古学調査は行われてきたが、民俗学的調査が行われてこなかった。年度内の研究として、北谷城の聖地の地図化は、北谷町教育委員会ともにデータアーカイブできた。また、その聖地内に存在している、旧伝道・北谷字の祭祀継承を記録した。とりわけ、北谷のノ口の継承が明らかになり、その旧村落からの移転したノ口祭祀殿を調査により伝承資料をアーカイブした。この一連の資料は、北谷城址跡地の今後の文化財保護行政の資料として重要なデータを提供した。同基地内で実施された「長老山祭祀」（9月）とよばれる年1度の祭祀を参与観察したことより、旧字北谷3カ村の現在までの聖地拝礼活動を記録できた。この課題は、今後、観光人類学的に発展可能である。

以上の研究成果は、沖縄の戦後の基地建設により強制移転を余儀なくされた集落の現在のコミュニティ再編に関する人類学的研究データを作成した事に意義がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山内健治	4. 巻 58
2. 論文標題 米軍基地接収による移動集落の聖地と景観の記録をめぐる民族誌 沖縄県読谷村喜名・北谷町下勢頭郷友会の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治大学社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 p 97 - 131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内健治	4. 巻 181
2. 論文標題 フェンスの向こうの故郷ー基地内の聖地を選擇する人々	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊 民族学	6. 最初と最後の頁 p 4 - 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山内健治他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 30
3. 書名 平和創造学への道案内	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------